

# 晴天の心



秋季大祭 10月19日(土) 午前9時～  
婦人会例会 10月9日(水) 午前10時～

10月は立教の月。  
187年前の10月26日午前8時ころ、「みきを」神の社に差し上げますと、夫善兵衛様が、返答されたことからこの教えは始まります。この返答をされるまで、どれほどの葛藤があったことでしょう。周囲の反対を受けながらも奥さんの体を考えると断るに断れない。しかし、今まで聞

いたこともない神様。それは苦悩したことでしょう。しかし、教祖伝などでも書かれています。もし偽物であったとしたらこれほど多くの方が、救かるはずもなく、感謝されることもない。親神天理王命様は、いつも私たちを見守ってくださっているのです。10月26日日本部秋季大祭はその時刻に合わせて午前8時より行われます。どうぞご参拝ください。(写真は朝づとめ直後の神殿東側)

...

家の裏手の柿の木には毎年、実がなります。渋柿ですが、この時期の実の色はとても美しいのです。

柿を味わうのは、あまり好きではないのですが、熟しかけた柿の実の鮮やかな朱色を見てみると、なんとも幸せな気分になってきます。家族には「太陽の色に近いからかな」などと言っていますが、昔から大好きな色の一つでした。

でも、柿の実の色を楽しむことができるのは、一年でこの時期だけです。自然の世界に存在する生命には、必ず旬があります。きっと人間社会の中にも、静かにじっと見澄ませば、さまざまな旬を感じることができるのでしょう。

「今日種を蒔いて今日に出けん。旬を見て生える。又実が出ける」

今日の  
おやのことば

「旬を見て生える。又実が出ける」

今日種を蒔いて今日に出けん。  
旬を見て生える。又実が出ける。



おさしづ 明治31年3月28日

地中に根を張り、少しずつ成長してきた生命の営みが、色鮮やかに結実する。見えない年月の積み重ねがあつて初めて、柿の色に深みが出てくるのです。

いつか旬が来たとき、私たちもこの柿の実のように、美しい色が出せるのでしょうか。日に日に成長する子供たちや身近な若者たちの姿を見てみると、彼らの未来に美しい実がなることを願わずにはいられません。

また、熟した柿の実のほうが、むしろ色に深みがあります。人生という果実に深い色合いを重ねることができるよう、まだまだ頑張らなくてははいけませんね。(岡)

9月から動画サイト YouTube に動画投稿を行っています。

チャンネルは <https://www.youtube.com/@伏井啓之> で公開しています。@伏井啓之で検索しても見つかります。

動画を公開し始めたきっかけは、先月紹介した VHS からのデータ化したテレビ放送動画でした。その後 VHS テープが見つかり今データ化しないとみるができなくなると思ってデータ化を行ったのですが約30年くらい前のもの。今ではもう入手不可能な貴重な映像でしたので、教理的なものは@伏井啓之で、一般的なものを@farmpced で公開することにしました。現在毎日1動画公開していますが、それは、30年くらい前に嫁さんが修養科時代に購入したラジオ講座のカセットテープ。これは約40本くらい見つかりましたので、これに写真をつけて動画にしたものです。

今では聞くことのできない先人の方のお話を改めて聞くことは非常に勉強になります。ラジオで放送されたものですので、聞きやすくわかりやすい内容になっています。

YouTube 検索

ホーム ショート 登録チャンネル

チャンネル

おすすめ

親心を身近に 8 B 立教159年(1996年) ラジオ番組 : 里の仙人 5 A 働く : 親心を身近に 8 A 立教159年(1996年) ラジオ番組 : 里の仙人・考5 生きる

動画

親心を身近に 8 B 立教159年(1996年) ラジオ番組 : 親心を身近に 8 A 立教159年(1996年) ラジオ番組 : 親心を身近に 7 B 立教159年(1996年) ラジオ番組 : 親心を身近に 7 A 立教159年(1996年) ラジオ番組 : 親心を身近に 6 B 立教159年(1996年) ラジオ番組 : 親心を身近に 6 A 立教159年(1996年) ラジオ番組

どうぞ、どのお話からでもいいと思いますので、お聞きになって、よければチャンネル登録をしておくといつでも聞き直すことができます。毎日更新していきます。なお、30年近く前の内容ですので、今とは違う言葉の表現となるところもあります。ご了承ください。

YouTube 検索

ホーム ショート 登録チャンネル

チャンネル

おすすめ

おはようパル-リリイベ道土洋三・高石とみや : おはようパル-リリイベ道土洋三・高石とみや : おはようパル-リリイベ道土洋三・高石とみや

動画

おはようパル-リリイベ道土洋三・高石とみや : 高石友也 ベストコレクション : 1991夏 豊城から さだまさし 総合放送編集分VHS : 1990年録音ファイルコンサート VHSテープより

@farmpced のチャンネルは、先月公開した宵々山コンサートが3万回再生を超えてびっくりしています。先日、DVD-RAM に保存されていたうたの日カーニバルは、本当に楽しい沖縄の風にあふれています。こちら是非ご覧ください。

この動画サイトを通じて、少しでも教元に触れて何かを感じて、心の持ちようが変わるきっかけになればいいと思っています。

## 26.麻と絹と木綿の話

明治5年、教祖が、松尾の家に御滞在中のことである。御居間へ朝の御挨拶に伺うた市兵衛、ハルの夫婦に、教祖は、「あんた達二人とも、わしの前へ来る時は、いつも羽織を着ているが、今日からは、普段着のままにしなされ。そのほうが、あんた達も気楽でええやろ。」と、仰せになり、二人が恐縮して頭を下げると、

「今日は、麻と絹と木綿の話をしよう。」と、仰せになって、

「麻はなあ、夏に着たら風通しがよくて、肌につかんし、これ程涼しゅうてええものはないやろ。が、冬は寒うて着られん。夏だけのものや。3年も着ると色が来る。色が着てしもうたら、値打ちはそれまでや。濃い色に染め直しても、色むらが出る。そうになったら、反故と一しょや。絹は、羽織にしても、着物にしても、上品でええなあ。買う時は、高いけど、誰でも皆、ほしいもんや。でも、絹のような人になったら、あかんで。新しい間はええけど、一寸古うなったら、どうにもならん。そこへいくと、木綿は、どんな人でも使っている、ありきたりのものやが、これ程重宝で、使い道の広いものはない。冬は暖かいし、夏は、汗をかいても、よう吸い取る。よごれたら、何遍でも洗濯が出来る。色があせたり、古うなあって着られんようになたら、おしめにでも、雑巾にでも、わらじにでもなる。形がのうなるところまで使えるのが、木綿や。木綿のような心の人を、神様は、お望みになっているのやで。」と、お仕込み下された。

以後、市兵衛夫婦は、心に木綿の二字をを刻み込み、生涯、木綿以外のものは身につけなかった、という。

## 27.目出度い日

明治五年七月、教祖が、松尾市兵衛の家へお出かけ下されて、御滞在中の十日目の朝、お部屋へ、市兵衛夫婦が御挨拶に伺うと、「神様をお祀りする気はないかえ。」と、お言葉があった。

それで、市兵衛が、「祀らせて頂きますが、どこへ祀らせて頂けば宜しうございませうか。」と、伺うと、「あそこがええ。」と、仰せになって、指さされたのが、仏壇のある場所であった。余りに突然のことではあり、そこが、先祖代々の仏間である事を思う時、市兵衛夫婦は、全く青天に霹靂を聞く思いがした。が、互いに顔を見合わせて、肯き合うと、市兵衛は、「では、この仏壇は、どこへ動かせば、宜しいのでございませうか。」と、伺うた。すると教祖は、「先祖は、おこりも反対もしやせん。そちらの部屋の、同じような場所へ移させてもらいや。」との仰せである。

そちらの部屋とは、旧客間のことである。早速と、大工を呼んで、教祖の仰せのまにまに、神床を設計し、仏壇の移転場所も用意して、僧侶の大反対は受けたが、無理矢理、念仏を上げてもらって、その夜、仏壇の移転を無事完了した。そして、次の日から、大工四名で神床の工事に取りかかった。

教祖に、「早ようせんと、間に合わんがな。」と、お急ぎ頂いて、出来上がったのは、十二日目の夕方であった。翌朝、夫婦が、教祖のお部屋へ御挨拶に上がると、教祖はおいでにならず、神床の部屋へ行ってみると、教祖は、新しく出来た神床の前に、ジッとお坐りになっていた。そして、「ようしたな。これでよい、これでよい。」と、仰せ下された。

それから、長男檜蔵の病室へお越しになり、身動きも出来ない檜蔵の枕もとに、お坐りになり、「頭が痒いやろな。」と、仰せになって、御自分の櫛をとって、檜蔵の髪をゆっくりお梳き下された。そして、御自分の部屋へおかえりになった時、「今日は、吉い日やな。目出度い日や。神様を祀る日やからな。」と、言って、ニッコリとお笑いになった。

夫婦が、「どうしてお祀りするのかしら。」と、思っていると、玄関で人の声がした。ハルが出てみると、秀司が、そこに立っていた。早速、座敷へ案内すると、教祖は、「神様を祀る段取りをされたから、御幣を造らせてもらい。」と、お命じになり、やがて、御幣が出来上がると、御みずからの手で、神床へ運んで、御祈念下された。

「今日から、ここにも神様がおいでになるのやで。目出度いな、ほんとに目出度い。」と、

心からお喜び下され、「直ぐ帰る。」と、仰せになって、お屋敷へお帰りになった。  
仏壇は、後日、すっきりと取り片付けた。



このお話の中で、御幣を造って神床（かんどこ）に据えて祈念されています。古い教会では、御幣を祀っているところもあると聞いていますが、多くの教会では神実様（かんざねさま）を本部より下附されてお社におさめて祀らせていただいています。  
また、各信者宅でもお社がある場合は、神実様を祀らせていただいています。

この神実様は、ちばかんろだいと常にLINKされて24時間接続された状態となっていますから、お社の前で、柏手を打ち神名を唱えることで、親神様に直接、お礼やお願いをすることができるのです。

神様を祀るということは、素晴らしいことなのです。

教会長資格研修ではいろいろ教わるのですが、その中で、年に一度はお社の中を確認して掃除するように教えられました。年末の大掃除のときがいいと思い実行していますが、神実様があるかどうか、台座に置かれているかなどを確認して、社の内側をきれいに拭くということです。また、万が一火事や火災で避難するときは、お社を運ぶのではなく神実様をお社から取り出して運び出すようにとも教えられました。

何が大事かを見誤らないことが大切で、手順やルールよりも守るべきものが何なのかを、見極めて行動することだと思います。

いつも見守っていただいている目に見えない存在、お陰様でという言葉の真意をしっかりと考えないと、残念なことにつながることを忘れないようにしましょう。



## フリーフォトクラブ 美写真展

2024年10月

13日(日)・14日(祝)

9時～18時

富田林市民会館 2階展示室

テーマ 水のある風景

### 写真展のお知らせ

昨年好評でした写真展を10月に開催します。

10月13日・14日両日

富田林市民会館2階展示室

両日とも終日詰める予定としています。

入場は無料です。どうぞお気軽にお越しください。

神人和楽の世界というのが、神様の願うところです。人が陽気ぐらしをするのを見て、神もともに楽しみたい。強制されるところに陽気になる種はありません。自分自身から一所懸命に何かをしている時は、楽しくて時のたつのを忘れてしまいます。

そして一所懸命な姿は、周りの人の心に響きます。その連鎖が、陽気ぐらし世界へとつながると信じます。人が勇めば、神も勇る。

<<協賛開催 特別講座>> 参加無料

\*カメラのメンテナンス講座 13日10時～14時～ 2回

\*マウントアダプタで広がる世界 14日10時～14時～ 2回  
メンテナンスの基本や流行のオールレンズの楽しみ方などを紹介します

講師 ファームパソコンデジカメ教室 伏井啓之

フリーフォトクラブ美写

例会日 毎月第4日曜  
18時頃より

富田林市民会館2階会議室



富田林市民会館2階展示室  
富田林市民会館2階展示室  
富田林市民会館2階展示室  
富田林市民会館2階展示室